

平成三十年度 卒業式 式辞

少し前までの厳しい寒さも徐々に緩み、立春が過ぎた頃からは少しずつ暖かい日も多くなり、日に日に春の息吹が感じられるようになってまいりました。

この良き日に、多数のご来賓の皆様、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに茨城県立取手第一高等学校第71回卒業証書授与式を盛大に挙行できますことは、我々教職員一同にとりましてこの上ない慶びでございます。

ただ今、卒業証書を授与しました238名の生徒の保護者の皆様におかれましては、保護者としての役割がひと段落したことでの安堵感とともに、お子様の晴れの門出の姿をご覧になり、感慨も入のことと拝察いたします。本当におめでとうでございます。心からお祝い申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうでございます。皆さんとお付き合いは一年間でしたが、部活動をはじめ、文化祭や野球応援等で見せていただいた、皆さんの逞しい姿が印象的な本校での時の流れは、私にとって大変思い出深いものとなりました。

野球部は夏の大会を勝ち上がり、4回戦、そして準々決勝とコマを進めました。勝ち上がる度に、より精悍になっていく選手の風貌。結果は40年振りのベスト8、大変素晴らしい成果を残してくれました。それから、応援団とチアリーダーの皆さん。40℃近い酷暑の中、全力の応援をしてくれました。最初は、ギクシャクしたように見えてましたが、徐々に堂々たる応援風景となっていきました。

また、いよいよ今年開催される「いきいき茨城ゆめ国体」の強化指定校に指定されている自転車競技部、ライフル射撃部の皆さんも、昨年秋に開催された「福井国体」において素晴らしい結果を残してくれました。「いきいき茨城ゆめ国体」に向け更なる活躍が期待されます。そして、いつも清々しい挨拶で私たちを温かい心にしてくれる女子バレー部の皆さんは、本校のホームページを飾ってくれています。

いよいよ今年は茨城国体が開催されます。皆さんが示してくれた取一精神「力耕不吾欺」の実践は、間違いなく後輩達に受け継がれ、きっと素晴らしい実りをもたらしてくれるものと信じています。

ところで、この取一精神の「力耕不吾欺（りきこうわれをあざむかず）」ですが、私の大好きな言葉となりました。「力耕」、すなわち田畑を一生懸命耕すこと、物事に真剣に取り組むことは、「不吾欺」、自分にきちんと結果が返ってくるということを表しています。言い換えれば、努力しなければ得るものなし、ということでしょうか。私は、この言葉を「自分プライド」と名付け、自分なりの矜持をもって物事に取り組むことを皆さんにお願いしてきました。先ほど触れたたくさんの運動部の皆さん、そして先ほども演奏してくれましたが、少人数でも素晴らしい響きを聴かせてくれているハンドベル部の皆さんや、夏の吹奏楽コンクールで、「周囲の音をよく聴き」チームで音楽を創っていた吹奏楽部の皆さんなど、本校の至るところで、この「力耕不吾欺」の実践を見つけることができます。雁耕祭で見せてくれた、実行委員会の活躍も忘れがたいものとなりました。

卒業生の皆さん、これからの人生、この「力耕不吾欺」の精神を忘れず、人生の荒波に立ち向かって下さい。

ところで、作家の伊坂幸太郎さんの作品に「砂漠」という小説があります。伊坂さんに

はたくさん作品がありますから、これまでに彼の作品に触れられた皆さんも多いかと思えます。

さて、この「砂漠」での主人公には社会人の彼女がいるのですが、彼女の台詞にこのようなものがあります。

「学生は、小さな町に守られているんだよ。町の外には一面、砂漠が広がっているのに、守られた町の中で暮らしている。」

卒業生の皆さんの中には、これからすぐに、この「町の外に」広がった「砂漠」へ出ていく皆さんもいます。そして、いつかは皆さん一人一人がこの「砂漠」に出て行くことになります。「砂漠」を想像してもらえばわかるように、厳しい環境が待っています。しかし、その「砂漠」にも雨は降ります。

「エルニーニョ」という言葉があります。これは、太平洋の赤道の東側付近で海面水温が高くなる現象を言います。海面水温が上昇すると、その海域の上空に上昇気流が発生し、雲ができ、その雲が雨を降らせません。砂漠での雨は大変貴重ですから、エルニーニョには、「神の子 キリスト」の意味があります。言わば、恵の雨です。

世の中は確かに厳しい。けれど、その間に、時々降る「砂漠」の雨のように、幸せな時間はきっと訪れる。喩えれば、そのきらっと煌めくダイヤモンドのような幸せな時間を過ごした経験が、その人に「生きる力」を与え、その後の人生を豊かなものにしてしてくれるのではないのでしょうか。

これまで、様々な機会に、よい思い出を作ってください、という話を繰り返してきました。いつも幸せな事ばかりではない人生、その時、今お話した、時々降る砂漠の雨のような、そんな時間を大切にしてください。そんな思い出が、きっと、皆さんのこれからの人生を支えてくれます。

昨日の同窓会入会式の折、私は荒井由実さん、松任谷由実さんの「卒業写真」を演奏しました。その歌詞のように、「あの頃の生き方を あなたは忘れないで」下さい。皆さんが手にする卒業アルバムには、皆さんの「あの頃」が詰まっています。苦しくなった時、そして悲しくなった時、この卒業アルバムを開いて下さい。そこにある友の笑顔と共に、この学舎で過ごした思い出が、きっと皆さんを支えてくれるでしょう。そして、再び本校を訪れて、新たな思い出を話しに来て下さい。我々教職員一同、皆さんが気持ちよく訪れたいと思う取手一高になるよう、さらに精進を続けて参りたいと思います。

結びとなりますが、この3年間、皆さん一人一人を励まし支援を惜しまなかった3年次の先生方をはじめ、本校すべての教職員を代表して、前途洋々たる未来に旅立つ皆さんに幸多からんことをお祈りするとともに、心より御礼を申し上げまして式辞といたします。

卒業生の皆さん、ありがとうございました。

平成31年 3月1日

茨城県立取手第一高等学校長 田村 和浩